

東京記録

3 4

理想対傳

東京消防庁 ハイパーレスキュー

私たち四組の
自主研修先は、
ハイパーレスキ
ューの方々が働
く、東京消防庁
第二本部だ。
常に命に関わ
るような仕事だ
している方の、

仕事に対する考え方がうは
たくさんのことを学ばたと
思う。

例えば、私が一番印象に
残っているものは、恐怖感
があるときもあり、それど克
服する方はあるが、とい
う質問に対し、レスキュー
の方が答えた言葉だ、た。

難民と我々

三日目の午前中にある、
講演会は、「難民と一緒に
働いて」というタイトルで
私は難民の
ことだけを
伝えている
はと思っ
いた。しかし、実際には、
講師の先生が難民と働き、
学んできたことを伝えている
た。私は、その中でも、

「嫌なことや残念なこと、
出来なかつたりしたことが
あつても、その後のことを
自分考
えたい。こ
れから私はたくさん失敗
をしていくと思うが、その
つど、自分なりに次の道
を考えていきたいと思う。

「恐怖感はあるし、ある程
度なくとはいかないもので
す。ないとい自分の身も中
ないし、自分の身も守って
こそレスキューだと私は思
います」。

私はこの答えを聞いて、
命を犠牲にすることが仕事
ではないんだなと感じた。
私は将来、どんな仕事に
つくかは、まだは、きりと
は決めてはいない。けれど、
どんな仕事についても、ハ
イパーレスキューの方々の
生き方について、仕事につ
いての考え方は通じるもの
だと思ふ。将来的に、今回
学んだことを生かしたい。

TDL MEMORY'S

2日目の午
後から、待た
ずに、ランド
へ行つた。素
早くグループ
ごとにまとま
り、ランド内
へ入場。
少ない時間
でどれだけの
アトラクショ
ンに乗るにと

後から、待た
ずに、ランド
へ行つた。素
早くグループ
ごとにまとま
り、ランド内
へ入場。
少ない時間
でどれだけの
アトラクショ
ンに乗るにと

が出来るか不安だ、けれど、
ど、4つ乗ることができ、
皆大満足だ、た。
一番印象強かつたのは、
「スペースマウンテン」。
私は初めてで、絶対系は大
好きだけれど、真、暗さし
れが見えないのは怖かつた。
でも、そこも楽しかつた。
家族みんなへの土産や、
自分の欲しいものなど、い
ろんなものを買つたし、夜
の10時でも、時間延長の
お陰で、少しだけ見るこ
が出来たらうれしかつた。
タイムズニールランドは、三
日間の中で、一番楽しかつ
たし、良い思い出となつた。

学級ごとの自主研修で
葛西臨海水族館に行つ
た。臨海、
というだけ
あつて、海
かともま
れいだつた。
また、い
ろいろな種
類の魚がいておもしろか
つた。私が時に気に入
つたのはコブダイだつた。
顔が女ハまり可愛くない
のと、目がキョロ
キョロしている大
きいところがこ
も気に入つた。
でも早く回ります
で、時間があま
りつしまつたので、
水族館まで、いそいそ
と帰るま見こつた。



あとがき

修学旅行先の思い出が
あつた。何を書くか迷
たけれど、まとめるよか
つた。
今回の旅行が学んだこと
が楽しかつた。たことは忘れ
ない、いつまでも覚えていた
いし、学んだことは、10月
にある、文化祭で発表した
いと思ふ。修学旅行を通じ
て、四組の団結力に変化が
あつた。いい思い出、それが
何らかの形となって表れて
くれれば良い。修学旅行成功
してよかった。



紫波第一中校
3年 1組

伝統をつなぐ人



江戸ちやうちゃんから学ぶ

九月八日
修学旅行二
日目の自主
研を私達は
ちやうちゃん
の工場を
目さんを訪
問した。震
動が予定表
便した自主

研。職人さんほんんな人だ
ろうと思ひ、緊張した。
店に入ると五代目と六代
目が真剣にちやうちゃんに墨
で何かを書いていた。
店ではたうく女の人の話
をうかがった。ちやうちゃん
が使われているのを見ると
うれしいが、毎日同じこと
をすするのはつらいとちよめ
いう気持ちが高まっ、こい

集団の力

今回の修学旅行に行く前
くつ点検や、服装点検が徹
しく行われた。最初は靴と
違反する人が多く、よとま
りかかった。
が、みんな修
学旅行が近づ
くにつれ、みんなの意識も
高まり、違反者が少なくな
っていった。だんだんに、
修学旅行を成功させようと

みんながまとまっ、ていた
からこの修学旅行を成功さ
せることだと思ひ、だと思
う。集団の力を感した。

ると教えてくれた。そして
未来につなげていってほし
いのば、技術・店、そして
ちやうちゃん必要とする人
がいるということだ。うだ
大嶋屋思田は安政元年（一
八五四年）から一五七年フ
づいてる歴史ある店であ
る。そのような、昔からの
伝統的な工芸をこれからも
たやらずにやっていこうと
いう気持ちで、店の職人
は日々がんばっていきま
る。

私たちがちやうちゃんをつ
くったけど、立体的なもの
に筆で文字を書けるのは意外
と難しく、職人さんを尊敬
する気持ちが強まった。

難民に寄りそう

三日目、NHCR職員
の高嶋由美子さんの話を聞
いた。高嶋さんの仕事は難
民に寄りそい、難民を支援
する政府や他の国連組織N
GOとの調正や交渉です。
難民といったら復しい、
というイメージしかなかっ
たけど、この話をきいて、
大変な立場でも私たちが同

二日目の夜は定着のデ
イブリーランドだった。
最初にジャング
ルクルースに乗っ
て、そのあとホー
ンヘッドマシ
ンなどに乗った。
そのときは楽しか
ったけどお土産を
買いに行、たしま、二人
と三人ではなれてしま、
うで、スルーされた。
色々あって楽しかった。



た。必死でさがし回り、
やっ、と食べ物のお店を
たけ、コーラを
思い切りこぼして
しまった。とっさ
に「ちやうちゃんない
ですか？」とまひ
たけど、夢の国に
ちやうちゃんはないと
うで、スルーされた。
色々あって楽しかった。

おとがき

今回の修学旅行
で、色んな人
の話を聞いた、
見た、聞くと、
くことの大変さ
や大切さを学
びました。

中ちやうちゃん
さん屋さんの話が心に残っ
たのでトップ記事にしまし
た、また難民の支援をして
いる高嶋さんの話もとても
自分や将来を考えると、か
げになりました。

修学旅行で学んだことを
まとめらなれたかった。あ
う、字をもう少しちゃんと書け
ば良かったと思ひました。

冒険

校 3 中 3 第 3 波 紫

ROPPONGI すてきなホスピタリティ

二年生後半から話し合ってきた非別研修がなくなり、学級別研修を行うことになりました。それ

れから、三組は、あちこちに電話をかけた研修をお願いしたが断らねられた。しかし、

今回の修学旅行の事前取り組は二年生後半から始まりました。しかし、震災の影響で四月実施から九月に延期されました。楽しみがなくなったので、延期になって、残念な気持ちになつたけど、自然の災害だし、もつと苦んでいる人もいるので、修学旅

かし、六本木ヒルズで、ホスピタリティセミナーを受けます。接客する上で、大事になることや、普段から使えるサービスも学びました。

九一つにしても、角度やあいさつをするタイミングが違ふだけで全然印象が変わるのだなあと思いました。他にも、笑顔の作り方、道の案内の仕方など、今か

行に行けるだけありがたいと思いましたが、いつもより長い事前取り組になりました。けど、その分しゃかりと左前画が立てたよかったです。九月に行つたから、少し成長して、怒られることもなく、楽しめたんだと思えます。

らでも役に立つことを学べて、本当によかったです。最後に展望台に行つて、東京の景色を見たり、港区に唯一の田んぼを見たり、いろんな所を見学させてもらいました。なかなか見られない所も見させてもらつてうれしかったです。六本木ヒルズで研修を行つてよかったです。

難民とウソ

今回の講演会の講師は、高嶋由美子さんです。高嶋さんは、国連王冠協会事務局長を務めていらっしゃる方です。

高嶋さんは、「難民と一緒に働いて」という演題でお話してくださりました。日本で難民になることはできないので、どんな人が難民かは、知りませんが、日本は難民を受け入れていません。しかし、もっと多くの国が受け入れ国になるべきだと思えます。それ

私は、デイズニールンドについて、チームを組んだり、チームりめんなで走り、傘が走つて、パスマウンテンに並びました。たぶん一中生で一番早くアトラクションに乗ったと思います。その後、ビックサンパームマウンテンなど乗って、暗くなつてから、一時間待つて、スアラッシュマウンテンに乗りました。一番前が乗っていました。一番前が乗っていました。一番前が乗っていました。

Let's Go!

に、戦争、紛争をなくさなければなりません。あと、自分の国に帰ることも大事です。

見ただけで判断したり、意見を聞いただけで判断しないぞ、なんて違うのだから？と思つてお話ししました。いねなことは人生にはたくさんあるから、次どうするかが大事だということです。今回の講演会で、生きていく上で大事な事を学びました。

あとがき

たった三日間の修学旅行だ、だけど、一つの出来事が思い出に残るものになったと思えます。長い時間をかけてきたからこそ、楽しいと感じられたと思えます。学んだことはたくさんあるので、それをこれから行事や、普段の行動に生かしていきたいと思います。楽しむときは楽しんで、集中するときは集中する、メリハリをつけたいです。

未来

平成23年9月16日
紫波第一中学校
3年5組 番

難民と共に

私たち三年生は、講演会「難民と一緒に働いて」を聞きまして、お話ししてくださったのは、国連UNHCR協会事務局長の高嶋由美子さんです。高嶋さんは実際に外国に行き、難民の生活の手助けをし

た事もあるそうです。高嶋さんは最初に「難民とは何なのか」と私たちにたずねてきました。貧しい人・弱々しい人・食べ物がない人だと思っていましたが、本当は、戦争などで母国から他の国に移動する人のことを言うそうです。なので、日本人が日本で難民になることは出来ません。難民は戦争の中、生きて逃げなければなりません。昼は森に

隠れ、夜に国境へ走って逃げます。難民キャンプにつくと、何人いるのかを登録し難民には命のレーシヨンカード(身分証明書)がわたされ、それをもとに配給などが行われます。のちに難民は母国に帰ることも出来るそうです。実際に高嶋さんは、一人の老人も、その人の母国に帰すことが出来ました。その人に「ありがとう。母国で死ぬことが出来て嬉しいよ」と言ったら、その人は涙を流して、こんなステキな体験が出来たことに高嶋さんは、やりがいを感じたそうです。仕事と

東京に向かう新幹線の中では、友だちと話したりトランプで盛り上がったりして、ひまつぶしをしていました。もちろんそれは、悪いことではありません。ですが、場所は多くの人を利用する新幹線の中です。一般の方もたく

行動

さん乗っている中で、大声で話したり笑ったりして、良いのでしょうか。何回か先生に注意されました。中学三年にもなると、たのびの公共の場でのマナーが良くないのは、気をつけたいと思いませんか。

実級研修

修学旅行2日目、私たちは組は朝日新聞社に行きました。新聞をつくるには、取材をして情報を集め、文にして読み手が分かりやすいように書きます。誤字・脱字のチェックなどを何回もしてやっと完成します。文を書くときに気をつけることは、だれにでも公平

に正確に早く作ることでさうです。朝日新聞の方にこの仕事についてたずねたところ、「自分が伝えたことで世の中が良くなるんじゃないか」と思っています。伝えたいと思うから乗りこえられます。とのこと。私も、やりがいのある仕事につきたい

夢の国ディズニーランドで私は、アトラクションより買い物や写真をとることを重視していました。たくさんのお店に目移りしてしまいました。が、家族におみやげを買うことが出来ました。

一般の人の中には

Disney

コスプレをしている人もたくさんいました。皆さん、完成度が高く、おどろきをとったり、握手したりもしました。

友達と乗ったスプラッシュマウンテンも、一生の思い出になりました。

と思います。さらに私たちは、築地市場にも訪問しました。広さは23万㎡(東京ドーム5個分)もあり、一日平均2千トンの魚をあつかっています。野菜や果物の販売も行っています。そして市場は約4万2千人が利用しています。早朝から仕事が始まるので気力・体力のいる、大変な仕事だと思いました。

あとかぎ

楽しいことも学ぶこともたくさんあり、とても充実した良い修学旅行になったと思います。

二二漸

H23.9.12
 第11中校
 3年6組 査

はじめめて

以外にも

僕たち六組は、
 学級別研修で整視
 に行つた。六組全
 員で決めた場所だ
 った。まず一番初
 めに言われたのが
 「まだ、バスか
 ら降りないで下さ
 い」と言われた。
 何なら、テロ対策

のため、バスのナンバー
 レイト確認を行うからだ。
 まあでも何事もなく整視庁
 に入る事ができた。中ぞ
 は、広報課の小林さんとい
 う女性の方が案内してくれ
 た。節電のためか中ほうす
 暗かった。案内された場所
 は、通信指令センターとい
 う、主に通報や相談の電話



また一歩

生方には
 本当に感
 謝のかけ

へ回の修学旅行は、当初
 四月に予定していたが、大
 震災のために遅れてしまっ
 た。そのため、地震の心配
 があまり別学習会になくなっ
 てしまった。しかし、地震
 のことがあったのに、修学
 旅行を決定してくれた、先

りだし、今回の修学旅行で
 は、みんな大きく成長してき
 たと思う。それに、それぞ
 れの学級では団結も更にで
 きたと思う。ま、と男子と
 女子の仲も少しは、深まっ
 たと思う。とても充実した
 二泊三日だった。

が入る所だ。見学している
 最中にも、通報が入ってき
 ました。一日に約五千程の
 通報がある。その内の多く
 がイタダス電話というのだ
 から驚きだ。また、一〇〇

番以外にも、井九一〇〇と
 いふ番号がある。極秘相談
 のダイヤルだ。その他にも
 警視庁の中には、歴史を見
 ることのできる警察参事館
 という場所がある。その中
 では、今までの大きな事件

の写真や証拠品が置いてあ
 る。しかし、その中では撮
 影がNGだった。唯一白ハ
 ンがあるコーナーだけOK
 だった。警視庁への研修は

難民と共に

生き方に関する講演会は
 とても貴重な体験だった。
 高島由美子さんは、国連の
 UNHCR協会事務局長で
 、難民の支援などを主に行
 なっている。ちなみに、大

組の担任西村先生と同じ大
 学だという。今、難民は主
 に発展途上国に避難してい
 るという。日本にも三十人

バスの中でも

様々な移動の際バスを
 使った。バスの中では、
 みんなそれぞれ景色を眺
 めたり、となりや前の人
 と話をしたりと、とても
 にぎやかだった。バスの
 添乗員の東千絵さんとも
 一緒に盛り上がり、

とても緊張した。けれど、
 自分たちにとつても貴重
 な体験だった。本当に警
 視庁の方々には貴重な体験
 をくれて感謝している。

の受け入れをしてくれたという。
 またアメリカでは七万四千
 人も受け入れをしてくるだ
 。僕が今回の講演では、難
 民とは何か、また定義、現
 状など沢山のことを学んだ
 。また、難民とどう関わり
 合いをすればいいのかわ
 ち学んだ。本当に、いい講
 演だったと思う。

あじあと

二年生のころ
 から着々と、準
 備を進めてまに
 修学旅行。東日
 本大震災の影響
 のため、初め予
 定していた四月
 の修学旅行ではなく、九月
 の修学旅行となった。残暑
 のせいと東京は、岩手と違
 ったとても暑かった。各研
 修場所は、僕たちを快く
 受け入れてくれた。とても
 嬉しかった。修学旅行では
 沢山のことを学んだ。礼義
 や生きかたなどのこれからの
 関わる、これから的人生に
 関わる大きなことを学んだ。

